

令和4年10月25日

宇美町議会議長 古賀 ひろ子 殿

総務建設常任委員会  
委員長 黒川 悟

総務建設常任委員会視察研修報告書

標記のことについて下記のとおり報告いたします。

1. 期 日 令和4年10月13日（木）～14日（金）
2. 目 的 今後起こりうる南海トラフ地震への対応は、宇美断層の災害に備える。を研修テーマに東日本大震災にて内陸部断層災害を受けた町の対応を知るため、震災を経験された町議会の実情を聞き、宇美町の災害に備える。
3. 視察地 ●福島県西白河郡矢吹町  
●福島県岩瀬郡鏡石町
4. 出席者 ●総務建設常任委員会（6名）  
黒川 悟 入江 政行 藤木 泰 安川 繁典  
丸山 康夫 小林 孝昭  
古賀 ひろ子（議長）

5. 福島県西白河郡矢吹町議会視察（10月13日 研修1日目）

矢吹町の概要

矢吹町は、古くから奥州街道中の宿場として栄え、高速道路、新幹線及び飛行場へのアクセスに恵まれている。

町の面積の約半分は農地が占める。

また、町内外から人々が集まる魅力あるまちづくりを目指す。日本三大開拓地として歴史があり、広大な美田を有する町は、見る・遊ぶ・体験する観光スポットが多くある。

平成23年3月東日本大震災（震度6弱）により、町内の家屋の全半壊戸数は3,200棟であり、公共施設費被害約50億円、商工業関係被害額約25億円。

安全・安心に暮らせるまちづくり

各集会所・自治会館・災害備蓄倉庫・災害公営住宅など町は復興に向けて取り組まれている。

面積60.40km<sup>2</sup>、人口数17,067人、総世帯数 6,200世帯

※令和4年5月1日現在

## 6. 質問事項

テーマ 震災復興への経過概要及び議員・議会の対応

安全・安心に暮らせるまちづくり

- (1) 災害復旧にあたり、広域合併への議論は。
- (2) 災害復旧において、基金を活用は。  
また、基金を取り崩した後、積戻しは。その財源確保は。
- (3) 災害発生直後からの議会の対応（議員への連絡、議員の行動、委員会等の招集など）は。
- (4) 議会の災害時行動マニュアル等を策定は。
- (5) 執行部の災害対策本部と議会との関係について、議員に対する情報提供の時期や方法は。また、災害対応における連携内容は。
- (6) 防災備品内容は。（大型発電機・災害用トイレなど）
- (7) 災害時または復旧作業などでスマートインター（高速道路）の利用は。  
また、災害により一般道路が使用できず、スマートインターは利用できなかったなど、スマートインターの重要性は。
- (8) 福島原子力発電所震災事故による影響は。

## 7. 研修事項

質問事項について、「東日本大震災の被害状況」と「復興の状況」と「東日本大震災記録誌」に基づき役場庁舎で、担当課の企画総務課、まちづくり推進課課長から説明を受け質疑応答、自由討論を行った。

その後、災害備蓄倉庫と耐震性飲料水兼用貯蓄槽の現地視察を行った。

## 8. 福島県岩瀬郡鏡石町議会視察（10月14日研修2日目）

鏡石町の概要

日本の近代酪農業の発祥の地とされ、自然環境を活用したスポーツ・レジャー施設等、田園都市が広がる。

平成23年3月東日本大震災（震度6強）により、町内の家屋の半全壊戸数は1,000戸であり、一年間はほぼ全ての水田で米の作付けができない状況となる。その経験から、福幸(復興)のシンボルとして「窓から眺め

る絵本～もう一つの図書館～」をコンセプトに、色の異なる稲で田んぼアート事業を展開。

また、令和2年にも震度5強の地震発生200戸に被害。

面積 31.30km<sup>2</sup>

人口総数 12,201人（男性6,000人 女性6,201人）

総世帯数 4,432世帯 ※令和4年6月1日現在

## 9. 質問事項（質問事項は矢吹町と同じ）

テーマ 震災復興への経過概要及び議員・議会の対応

住宅・建築の耐震化等の減災対策

## 10. 研修事項

質問事項について、鏡石町「鏡石町東日本大震災記録誌」に基づき役場庁舎で、担当課の総務課、課長、主任主査から説明を受け質疑応答、自由討論を行った。

## 11. 視察を終えて

「今後、起こりうる南海トラフ地震への対応は、『宇美断層』の災害に備える」を研修テーマに東日本大震災にて内陸部断層災害を受けた町の対応を知るため、震災を経験された矢吹町及び鏡石町議会の実情を聞き、宇美町の災害に備えるため視察研修を受けた。

災害で上水道の断水を経験され、両町とも上水道と直結した耐震性飲料水兼用貯水槽が整備されて災害時の飲料水の確保されていた。

また、矢吹町では、防災備蓄倉庫の備蓄品で、女性用の生理用品の備蓄がされており、女性の災害時の避難所への配慮されていた。

防災無線が聞こえにくい世帯へ防災ラジオの提供（個人負担あり）が特徴的であった。

矢吹町、鏡石町両町とも震災時に、ブルーシートやガソリンなどの燃料の入手が困難であったことや両町とも、高速道路のインターチェンジが町内にあり、道路の液状化によるマンホールの隆起などで道路が分断されたが、高速道路での災害物資の運搬が可能であったことで、高速道路の重要性が報告された。

避難所運営については、自治会、コミュニティ、地域で避難所運営をしている地域があるとのことであった。

この研修を通して、災害に備えるために、町民の方々と一緒に防災意識の向上に取り組んでいきたい。